2026年11月14日(土)

特別講演

10:20 ~ 11:50 | 第1会場（天瑞：4F）

[SL] 特別講演

座長：松田 友秋（獅子目整形外科病院）

10:20 ~ 11:50

[特別講演]「未来への躍進」のためのプロフェッショナリズム

加藤 浩 (山形県立保健医療大学大学院)

特別講演

📅2026年11月14日(土) 10:20 ~ 11:50 | 🏛第1会場（天瑞：4F）

[SL] 特別講演

座長：松田 友秋（獅子目整形外科病院）

「未来への躍進」のためのプロフェッショナリズム

加藤浩（山形県立保健医療大学）

10:20 ~ 11:50

[特別講演]「未来への躍進」のためのプロフェッショナリズム

加藤 浩 (山形県立保健医療大学大学院)

特別講演

2026年11月14日（土）10:20 ~ 11:50｜第1会場（天瑞：4F）

特別講演

座長：松田 友秋（獅子目整形外科病院）



［講師紹介］

加藤 浩（カトウ ヒロシ）

山形県立保健医療大学大学院

［職歴］

2023年　山形県立保健医療大学大学院　研究科長（現在に至る）
2020年　山形県立保健医療大学保健医療学部理学療法学科　学科長　教授（～2022年3月まで）
2014年　九州看護福祉大学大学院看護福祉学研究科健康支援科学専攻　専攻長（～2018年3月まで）
2008年　九州看護福祉大学看護福祉学部リハビリテーション学科　教授
2003年　吉備国際大学保健科学部理学療法学科　助教授
1991年　九州大学医学部附属病院リハビリテーション部　入職

［学歴］

2004年　広島大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程後期修了　博士（保健学）
1991年　国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院　理学療法学科　卒業

［主な資格］

専門理学療法士（運動器）

［業績］

1. Koichi Moriguchi, Kuniaki Moridera, Tomoki Noguchi, Nariyuki Mura, Toshiaki Sato, Hiroshi Katoh: Latent Factor Structure of Dynamic Postural Control and Ankle Mobility in Young Female Volleyball Players During Single-Leg Tasks: A Pilot Study. *J. Funct. Morphol. Kinesiol.* **2026**, *11(3)*, 264. https://doi.org/10.3390/jfmk11030264
2. Yuki Nasu, Satoshi Hamai, Tsutomu Fujita, Kazuya Okazawa, Tomoaki Tanaka, Kenichi Kawaguchi, Yasuharu Nakashima, Nariyuki Mura, Toshiaki Sato, Hiroshi Katoh: Factor Analysis of Gait Parameters and Patient-Reported Outcome Measures in Women with Hip Osteoarthritis: A Pilot Study. *Biomechanics*. **2026**, *6(2)*, 49. https://doi.org/10.3390/biomechanics6020049
3. Masayoshi Sonoda, Hiroshi Katoh: Characteristics of Temporal Changes in Mechanical Energy Flow among Lower-Limb Segments during Walking with Knee Extension Restriction. *Clinical and Health Sciences Journal*. **2026**, *1*, 7–13. https://www.chs-journal.jp/pdf/no01_02.pdf
4. Ryosuke Karashima, Shintaro Kishimoto, Takuya Ibara, Kiyotaka Hada, Tatsuo Motoyama, Masayuki Kawashima, Yusuke Murofushi, Hiroshi Katoh: Effects of Weight-Bearing-Induced Changes in Tibial Inclination Angle on Varus Thrust During Gait in Female Patients with Knee Osteoarthritis. *Biomechanics*. **2025**, *5(4)*, 98. https://doi.org/10.3390/biomechanics5040098
5. Tomoaki Matsuda, Junichi Watanabe, Tasuku Sotokawa, Toru Shishime, Hiroshi Katoh: Estimation of the External Knee Adduction Moment Using Inertial Measurement Unit Sensors on the Shank and Lower Back: A Pilot Study. *J. Funct. Morphol. Kinesiol.* **2025**, *10(3)*, 356. https://doi.org/10.3390/jfmk10030356

6. Kazuya Okazawa, Satoshi Hamai, Tsutomu Fujita, Yuki Nasu, Shinya Kawahara, Shinya Kawahara, Shinya Kawahara, Yasuharu Nakashima, Hitoshi Ishikawa, Hiromi Fujii, Hiroshi Katoh: The Relationship Between Driving Performance and Lower Limb Motor Function After Total Knee Arthroplasty Using a Driving Simulator: A Pilot Study on Elucidating Factors Influencing Accelerator and Brake Operations. *Life*. **2025**, *15(5)*, 768. https://doi.org/10.3390/life15050768
7. Taiki Morikawa, Nariyuki Mura, Toshiaki Sato, Hiroshi Katoh: Validity of the estimated angular information obtained using an inertial motion capture system during standing trunk forward and backward bending. *BMC Sports Sci Med Rehabil*. **2024**, *16(1)*, 154. https://doi org/ 10.1186/s13102-024-00942-1.
8. Takeshi Shimamura, Hitoshi Ishikawa, Hiromi Fujii, Hiroshi Katoh: Smoothness Evaluation Indices during Sit-to-Stand-to-Sit Motions in Healthy Older Females and after Hip Fracture Using an Accelerometer: A Pilot Study. *Geriatrics*. **2023**, *8(5)*, 98. https://doi.org/10.3390/geriatrics8050098
9. Chihiro Niibo, Ryouta Nagahama, Hidefumi Fukuda, Hiroshi Katoh: Influence of Kyphosis Posture on Lower Extremity Joint Moment Power during Walking. *Asian J of Human Services*. **2023**, 25, 217–224. https://doi.org/10.14391/ajhs.25.217

[主な社会活動]

一般社団法人日本運動器理学療法学会，副理事長 （～2026年6月）
運動器理学療法学編集委員会，副編集長（～2026年6月）
第10回日本運動器理学療法学会学術大会　大会長（2022年9月）
日本理学療法士協会, 認定試験委員会 委員（～2022年3月）

[特許]

2010年　計測精度を高めた新しい関節角度計（特願：2010-245518）
2009年　歩行能力の改善を目的とした筋力トレーニング機器（特願：2009-092646）
2006年　身体動作能力の質を定量化するシステム装置（特願：2006-021691）

[受賞歴]

2024年　公立大学法人山形県立保健医療大学教員業績評価最優秀者
2023年　公立大学法人山形県立保健医療大学教員業績評価最優秀者
2021年　公立大学法人山形県立保健医療大学教員業績評価最優秀者
2013年　経済産業省　第5回ものづくり日本大賞（中国経済産業局長賞）受賞．
臨床普及型の表面筋電図解析評価システム「EMGマスター」の開発製造
2005年　第27回石本デサントスポーツ科学振興財団自由研究課題　優秀入選
原著：wavelet表面筋電図周波数解析を用いた歩行時の質的筋活動分析．デサントスポーツ科学27: 56-65, 2006
2001年　第12回理学療法ジャーナル賞　準入賞（医学書院)
原著：短時間フーリエ変換を用いた歩行時中殿筋の量・質的評価の試み－健常者と変形性股関節症患者の時間周波数特性－．PTジャーナル34: 53-59, 2000

[研究室URL]

https://researchmap.jp/hkato_sopt

特別講演

2026年11月14日（土）10:20 ~ 11:50｜第1会場（天瑞：4F）

特別講演

座長：松田 友秋（獅子目整形外科病院）

「未来への躍進」のためのプロフェッショナリズム

加藤 浩（山形県立保健医療大学大学院）

私は理学療法士として臨床現場で12年間勤務した後，教育・研究の道へ進み，本年で24年目を迎えました．これまで臨床・教育・研究という異なる立場で活動してきましたが，一貫して大切にしてきたものがあります．それは「志」です．中国・三国時代の諸葛孔明は，「志がなければ学問の完成はない」と説きました．この言葉に触れたとき，私は「学問」を「理学療法学」と置き換えて考えました．そして，理学療法学を発展させるためには，確かな志を持ち続けることが不可欠であると強く感じました．以来，「志」は私自身の仕事の原動力となり，臨床，教育，研究のあらゆる場面で判断の軸となってきました．

本講演では，その志の一つである「プロフェッショナリズム」について考えてみたいと思います．プロフェッショナル（Professional）の語源は，Progress（前進する）とfession（話す）からきています．つまり，プロフェッショナルとは，一歩前に出て，人前で自分の意見を述べることが出来る人という意味です．まさに，本学会で発表される先生方は皆さん，プロフェッショナルと言えるでしょう．この言葉には，専門的知識や技術を有するだけではなく，自ら一歩前へ踏み出し，自身の考えや成果を社会へ発信し，新たな価値を創造していくという意味が含まれているのです．その第一歩が「情報発信」です．

私は若い頃，臨床疑問を解決するために論文を読み続け，情報を集めることに力を注いでいました．そのようなある日，上司から「加藤君，そんなに情報が欲しいですか？」と尋ねられました．私は迷うことなく「はい，欲しいです」と答えました．するとその上司は，「それなら良い方法がありますよ．情報を探すのではなく，あなた自身が研究を情報として世に発信することです．学会で発表しなさい」と助言してくださいました．さらに，「情報を発信すれば，その研究に関連する情報も，人も，自然とあなたの周りに集まってきます」と続けられました．当時の私は，必要な情報は自分で探し集めるものと考えていたため，情報を得るために，まず自分が発信するという逆転の発想に，大きな衝撃を受けました．まさに目から鱗が落ちるような経験であり，この言葉は，その後の私の研究活動の原点となりました．それ以来，私は研究発表という形で継続的に情報発信を行ってきました．学会発表や論文発表を継続する中で，多くの研究者や専門職との出会いが生まれ，理学療法という枠を超えた学際的な研究へと発展していきました．

理学療法を取り巻く環境は大きく変化し，今後は従来以上に学際的視点と社会への情報発信が求められる時代となるでしょう．本講演では，私自身の経験をもとに，未来を切り拓く理学療法士に必要なプロフェッショナリズムとは何か，そして「志」を持ち続けることが未来への躍進につながることについて，参加者の皆様とともに考えたいと思います．

志　一　　理学療法の「理念」を明確にしよう！（何のために? 誰のために?）」
志　二　　プロフェッショナル（Professional）としての「誇り」を高く持とう！
志　三　　理学療法士としての「責任」を持とう！
志　四　　理学療法の「夢」を持ち続けよう！（10 年先のVision を持とう！）
志　五　　失敗を恐れるな！（怖いのは失敗を恐れて何もしないことだ！）
志　六　　臨床的感性（直感）を大切にしよう！（“select”から“choice”へ）
志　七　　磨かれた臨床的感性を科学的に表現できる力を持とう！
志　八　　研究は手段であり目的ではない！（目標なき研究は，発展・継続しない）
志　九　　やる前から無理だと諦めるな！まずは何事もやってみる勇気を持とう！
志　十　　100%完璧な理学療法を行うことは無理だろう．
　　しかし，100%を目指した理学療法を行うことは絶対出来るはずだ！
志　十一　　業務（流れ作業）ではなく仕事（クリエイティブ）を楽しもう！

九州の理学療法士の皆さんへ

理学療法士としての“夢”を持ち続けてください．そして，皆さん，一人一人が，自らの考えや成果を社会へ発信し続けて下さい．必ず，その発信を見ている人がいます．未来（夢）へ歩み続ける中で，日々の臨床に行き詰まることもあるでしょう．そのような時は，今日，皆さんが抱いた「志」を思い出して下さい．そして，再び，一歩ずつ前へ進んで下さい．そうすれば，10年後，必ずやそこには“美しい花（臨床に資する優れた研究と高度な臨床技術）”が咲いているはずです．